

自治会の取り組みで
地域に愛着をけやき坂自治会 環境衛生部会 ブロック幹事
望月 真咲 さん

新たな取り組みを考案

「自治会の役員になるまでは、地域のために新たな取り組みを行うなんて想像していませんでした。家庭や仕事と両立するのは大変でしたが、仲間にも恵まれ、取り組みの成果を実感できたので、楽しみながら活動できました」

そう話すのは、けやき坂自治会環境衛生部会のブロック幹事を務める望月真咲さん。同部会の主な活動は地域の公園清掃などです。

「これまでは、清掃後に飲み物を配っていましたが、自治会員の高齢化で運ぶのが大変になっていました。また、コロナ禍で活動が延期になり、賞味期限が切れてしまふなどの問題も抱えていました。そこで考案したのが『けやチケ』なんです」

自治会が発行する『けやチケ』は、事業に賛同したけやき坂地区内のお店で利用できる100円のチケット。公園清掃の参加者に、1回につき1枚配布されます。

地域がつながるきっかけに
チケット事業を導入したこ

とで、お店にぎわいが生まれていると望月さん。

「お店はホームページやツイッターで紹介し、目印として店頭ステッカーを貼ってもらっています。この事業を通して、地域の皆さんとお店の間で新たな交流が生まれているのがうれしいです」

同事業は自治会の活動を通じて、地域の輪が広がる機会にもなっています。

「公園清掃に来てくれる子どもが増えました。子どもにも誘われ参加する家族も増えていきますね。活動を通して、もっと地域を大切にしようとか、きれいに使おうという意識も芽生えています。また、接点

も増えています。子どもにも誘われ参加する家族も増えていきますね。活動を通して、もっと地域を大切にしようとか、きれいに使おうという意識も芽生えています。また、接点



がなかった人と一緒に活動することで、横のつながりも広がっているんです」

地域に愛着を持ってほしい

地域でつながりが生まれ、愛着を持つと、けやき坂はもっと盛り上がると望月さんは言います。

「地域活動などに今まで縁がなかった人に、興味を持ってもらえるような仕掛けを作っていきたくです。『けやチケ』も継続できるように工夫していきます。そして、お菓子の交換会など新たなことにも挑戦し、皆さんと楽しみながら地域を盛り上げていければと思っています」



食育ってなに

健全な食生活を送るために必要な知識など食に関する役立つ情報を発信していきます

食育は「さまざまな経験を通して、食に関する知識を身に付けることで、健全な食生活を送ることができる人を育てる」という普遍的なことですが、その手段は社会環境によって変化していきます。例えば、3年に農林水産省が公表した「第4次食育推進基本計画」では、ICTを活用して食に関する知識を習得するなど、デジタル化に対応した食育の推進に関する内容が盛り込まれています。

感謝の心を育むことや、郷土料理・地場産食材にふれること、食品ロスを考えることなども、食育の一つです。

食育について、より理解を深めてもらうために、広報誌4月号から「食と育つ」をリニューアルします。

食育の取り組みを絵文字で示した「食育ピクトグラム」を用いて、多くの人に役立つ情報やレシピを届けます。また、市ホームページなどでも紹介していきます。



「おとな子どもも食と育つ」の連載10周年を記念し、厳選レシピをまとめたレシピ集を抽選で10人にプレゼント。希望者は4月15日(金)までに市ホームページの応募フォーム(右の2次元コードからアクセス可)から必要事項を送信してください。



生きる

人権推進課
☎ 072 (740) 1150

「できる」と「できない」

タカマサくんと
ともに歩いた 500 キロメートル

今年度、この「生きる」のコラムを担当します、青少年育成や人権などをテーマに講演会などを行う「mottoひょうご」の栗木剛です。1年間のお付き合いをお願いします。

私と川西市のつながりは、ひどく雨が降っていた平成元年4月2日のお昼前、リヤカーを引いたびしょ濡れの6人組で市役所を突然訪問したことがスタートです。私たちは5日前に上月町(現:佐用町)を出発し、リヤカーとともに徒歩で兵庫県を150キロメートル横断し、そのゴールが川西市役所だった訳です。大学生から中学生の5人と私(当時29歳)は、途中、アボなしの宿泊を公民館などをお願いした旅だったので、汚いし、臭いし、びしょ濡れだし...という野良犬の群れのような状態でした。

しかし、受け付けの人に事情をお話して、到着した証拠に市役所の受付印だけ欲しいことを告げると、なぜか急に、汚い格好のまま市長室に通されて温かい飲み物をいただきました。

その時、メンバーの中で一番うれしそうだったのは特別支援学校中学部2年生になったばかりのタカマサくんでした。彼は重度の知的障がいに伴う自閉スペクトラム症で、彼の小学部6年間を通じての担任が私だったので。

前年の春は城崎から明石、この川西訪問の翌年の春は尼崎から城崎と、3年間で総計500キロメートルを彼は私と一緒に歩きました。彼は全くしゃべりませんから、クレームは言いませんでしたが、本音はきっと歩きたくなかったのかもしれない。

ある意味、彼にとって過酷な徒歩訓練となったこの企画は、彼の3つ上のお姉ちゃんと私の約束から始まったものだったのです。それは...広報5月号にて。

(mottoひょうご事務局長 栗木剛)

消費生活センターだより

消費生活センター
☎ 072 (740) 1167

高額送金を迫る「国際ロマンス詐欺」

ネットでも知り合った外国人から小まめな連絡
親切心や恋愛感情に付け込む手口に注意

事例1 SNSで親しくなった海外在住の外国人男性に、日本に行く前に荷物を送るが、君に受け取ってほしいダイヤモンドを入れておくので、受け取りに必要な保険と送料の1,500円を先に支払ってほしいと言われた。(40歳 女性)

事例2 父がネットで知り合った外国人女性とメールのやり取りをしている。女性は日本国籍を取得するために、父に2億円をあげるので結婚してほしいと言っている。父は渡航費用をいくらかすで送金しているが、返金してくれる約束だと言う。詐欺ではないか。(40歳 女性)

事例3 海外に住む男性から、高額宝くじが当たったのでその一部(1億円)を受け取り、困っている人を助けてあげてとメールが届いた。その志に感動して、手続き費用100万円以上を送金した。周りからはだまされていると言われるが、ニュースで男性の当選を見たので本当だと思う。(50歳 女性)

回答 SNSやマッチングアプリで知り合った外国人と親しく連絡を取り合ううちに送金を迫られる、「国際ロマンス詐欺」の相談が増えています。相手は1日に何通も画像やメールを送り、考える時間を奪い、信頼させることでマインドコントロールを行います。いったんお金を払ってしまうと取り戻すのは極めて困難です。また、本人が恋愛感情や親切心を利用されていると認識していない場合も多いので、周囲のサポートが重要です。おかしいと思ったら消費生活センターへ相談してください。